

Letter for Members

【コンテンツ】

- 支部学術大会報告 1
- 令和6年度認定医・専門医筆記試験 6
- 令和6年度専門医研修会が開催されました 7
- 第9回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'24」開催の報告 8
- 市川先生 佐藤先生 受賞報告 9
- Pacific Coast Society for Prosthodontics (PCSP)
89th Annual Meeting参加報告 10

支部学術大会報告

●東北・北海道支部学術大会

令和6年度東北・北海道支部学術大会は10月5日(土)、6日(日)に郡山市民交流プラザ(福島県)を会場に昨年と同じく現地対面方式で開催され、162名の皆様にご参加いただきました。今回は一般口演6題、ポスター発表7題、専門医ケースプレゼンテーション1題のほか特別講演1題を行いました。まず特別講演では、北海道医療大学の飯田貴俊先生に「歯科訪問診療でおこなう、摂食嚥下リハビリテーション」というタイトルでご講演いただき、飯田先生が展開している摂食嚥下リハビリテーションの基本と歯科訪問診療での取り組みについてご講演いただきました。

また、学術大会終了後には「『栄養摂取』と『美味しい』を守る補綴歯科」のメインテーマで生涯学習公開セミナーが開催され、山森徹雄先生(奥羽大)座長のもと、

「インプラント補綴歯科治療の効果を高めるー多角的視点からの考察ー」と題して依田信裕先生(東北大)に、「インプラント治療におけるデジタル技術の拡大とインプラント埋入手術への応用」と題して今一裕先生(岩手医大)にご登壇いただき、依田先生からImplant-assisted partial denture (IARPD)について多角的視点からご講演いただきました。また今先生からはインプラント治療におけるデジタル技術の拡大と応用についてご講演をいただきました。ご参加、ご後援、ご協力いただいた皆様のおかげで充実した支部学術大会となりました。この場をお借りして関係各位に厚く御礼申し上げます。

(奥羽大 羽鳥弘毅)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_1168.pdf



特別講演での感謝状贈呈 講師 飯田貴俊先生(左)、
大会長 羽鳥弘毅(右)



生涯学習公開セミナーでの感謝状贈呈
左から 座長 山森徹雄先生、講師 今一裕先生、
講師 依田信裕先生、大会長 羽鳥弘毅

● 関越支部学術大会

2024年12月15日(日)に令和6年度(公社)日本補綴歯科学会関越支部学術大会を栃木県宇都宮市ホテルニューイタヤにおいて、栃木県歯科医師会、群馬県歯科医師会、新潟県歯科医師会の後援をいただき開催いたしました。当支部は3県で順次に学術大会を開催しておりましたが、COVID-19の蔓延によりWEB開催が続き、7年ぶりに栃木県での開催に至りました。学術大会では口演8演題、専門医ケースプレゼンテーション2演題の発表がされ、数多くの先生にご参加いただきました。学術大会における特別講演では、佐々木啓一先生(宮城大学学長、東北大学名誉教授)に『「下顎位」と「咬合」：力と運動から考える!』と題して、補綴治療を行ううえでとても重要な下顎位と咬合について、その基本から臨床における下顎位、咬合の設定のポイントについてご講演いただき、多くの質疑に対してもご回答いただき実りのある特別講演となりました。また、同日に「口腔内スキャナーの活用法と今後の展望」というテーマで生涯学習公開セミナーが開催され、佐藤隆太先生(SRデンタルクリニック)には「ワイヤレス型口腔内スキャナーの実践的活用法」、井上栄一先生(いのうえ歯科クリニッ

ク)には「当クリニックでのIOS活用事例」と題したご講演をいただきました。臨床におけるIOSの適用、活用方法についてお話いただき、研鑽の場となりました。最後に、多くの先生方にご参加いただき、大会を盛会裏に終えることができ、この場をお借りいたしまして関係各位に厚く御礼申し上げます。

(日歯大新潟 水橋 史)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_1213.pdf



特別講演での感謝状贈呈



会場

● 東関東支部・西関東支部合同学術大会

2024年11月10日(日)、日本大学松戸歯学部の小見山 道、神奈川歯科大学の井野 智を大会長として第21回千葉県歯科医学大会と共催にて、令和6年度公益社団法人日本補綴歯科学会東関東支部・西関東支部合同学術大会が千葉県千葉市の京成ホテルミラマーレにて開催されました。本年度は東関東支部89名、西関東支部72名の計161名が参加され、一般口演11演題の発表、各支部総会、特別講演が執り行われました。各支部が制定した優秀発表賞は一般口演11演題の発表に対して審査を行い、西関東支部イーストレーキ賞は鶴見大学の溝越 眺先生、東関東支部若手優秀発表賞は明海大学の松本大慶先生が受賞されました。特別講演は「AI, DXによる医療革新」をテーマとし、神奈川歯科大学医科学講座画像診断学分野の池上 匡先生より「No AI, No Life ~ AI画像診断による認知症予防戦略」の演題で、協和デンタル・ラボラトリーの木村健二先生より「AIとDXで進化する歯科技工技術」の演題でご講演をいただきました。同日に開催された生涯学習公開セミナーでは、「栄養摂取」と「美味しい」を守る補綴歯科」をテーマとし、東北大学大学院歯学研究科加齢歯科学分野の服部佳功

先生より「人生100年時代における補綴歯科医の社会貢献」の演題で、東京都健康長寿医療センターの平野浩彦先生より「新「オーラルフレイル」ご存じですか? : 令和6年3学会合同ステートメント」の演題にてご講演をいただきました。

本学術大会の開催にあたり、ご協力を賜りました第21回千葉県歯科医学大会の関係者の皆様、千葉県歯科医師会の皆様、遠路参加をいただきました西関東支部の先生方、東関東支部の先生方ならびにご発表いただいた先生方のご協力に感謝申し上げます。

(日大松戸 小見山 道)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_1195.pdf



特別講演を終えて感謝状贈呈



生涯学習公開セミナーを終えて 一般口演感謝状贈呈

●東京支部学術大会

令和6年度東京支部学術大会は、2024年12月1日（日）に昭和大学歯学部口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門の主管で古屋純一大会長のもと、昭和大学上條記念館において現地開催されました。午前的一般口演は15演題で、活発な質疑応答が行われ、その中から座長の審査により4題の優秀口演発表賞が選出されました。また、専門医ケースプレゼンテーションでは1演題の発表がありました。併せて東京支部総会をはさみ、午後からは特別講演と学会閉会後の生涯学習公開セミナーが行われ、247名の皆様にご参加いただきました。

特別講演では、東京科学大学大学院医歯学総合研究科高齢者歯科学分野 金澤 学先生から、「超高齢社会におけるデジタルデンティストリー」のタイトルでデジタルデンチャー、口腔機能と全身機能の関係、インプラントオーバーデンチャー、そして医療機器プログラムの応用に関する臨床研究とデジタルデンティストリーのこれからの展望をご講演いただきました。生涯学習公開セミナーは「日米の補綴臨床と歯周治療から歯科の未来を考える」と題し、2021年に米国から帰国され米国補綴専門医および米国歯周病

専門医の資格を有する、東関東支部の杉田龍士郎先生にご登壇いただきました。理論に裏付けされたスケールの大きな症例の供覧は、多くの臨床家の良い刺激となりました。また、懇親会を開くこともでき、旧交を温めつつ会場だけでは足りなかった熱い議論を交わす楽しみを共有できました。

お蔭さまで充実した支部学術大会を盛会裏に終えることができました。この場をお借りして、ご関係各位に厚く御礼申し上げます。（昭和医大 下平 修）

プログラム・抄録集 PDF

https://www.hotetsu.com/files/files_1208.pdf



生涯学習公開セミナーの
杉田龍士郎先生と飯沼利光支部長



特別講演の
金澤 学先生と古屋純一大会長

●東海支部学術大会

東海支部学術大会は2024年11月16日（土）、17日（日）に愛知学院大学末盛キャンパス臨床教育研究棟末盛講堂にて開催されました。東海支部では支部長任期期間中は支部長が学術大会を主管することとなっていますので、東海支部学術大会は昨年に続き愛知学院大学での開催となりました。

今年度の学術大会は、一般口演6題、ポスター口演2題、専門医申請プレゼンテーション2題に加え特別講演、専門医ケースプレゼンテーション、生涯学習公開セミナーが行われました。特別講演では朝日大学歯学部口腔機能修復学講座歯科補綴学分野の教授にご就任されました宇野光乗先生より「オーラルアプライアンスを応用した補綴処置」と題してのご講演をいただきました。また、生涯学習公開セミナーでは、メインタイトルを「インプラントの長期予後を考える」として、朝日大学歯学部口腔病態医療学講座インプラント学分野 中本哲自教授から「インプラントの長期安定性獲得のために」、愛知学院大学歯学部冠橋義歯・口腔インプラント学講座 近藤尚知教授から「インプラント周囲炎への対応」についてご講演いただきました。

この学術大会や生涯学習公開セミナーが歯科補綴に関する最新の医療技術や研究成果を提供し、東海支部会員の皆様の知識の共有と連携を強固にする機会になることを願い大会を運営させていただきました。至らぬ点も多々ありましたが、皆様のご協力の下で大会が運営でき、活発なディスカッションが行われ有意義な大会となりました。

最後になりますが、ご参加していただきました東海支部会員の皆様とご講演いただきました先生方に、この場をお借りして改めて深く御礼申し上げます。

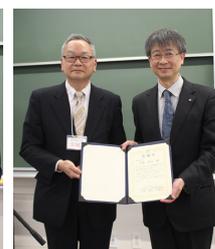
（愛院大 木本 統）

プログラム・抄録集

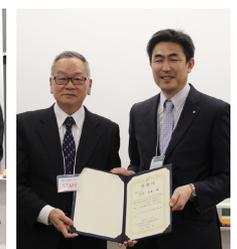
https://www.hotetsu.com/files/files_1200.pdf



特別講演ご担当の
近藤尚知教授への感謝状
贈呈



特別講演ご担当の
中本哲自教授への感謝状
贈呈



生涯学習公開セミナーご
担当の宇野光乗教授への
感謝状贈呈

● 関西支部学術大会

令和 6 年度関西支部学術大会が、2024 年 12 月 14 日 (土)、15 日 (日) に大阪歯科大学楠葉西学舎にて現地対面形式で「補綴歯科がもたらす健康長寿」をメインテーマに開催されました。

14 日には、専門医ケースプレゼンテーション 2 演題、一般口演 6 演題、特別講演として、西村正宏先生 (大阪大) に「顎骨再生研究のこれまでと今後」と題したご講演をしていただきました。顎骨再生医療開発の最前線が理解でき、有意義な学びの多いご講演でした。1 日目終了後には、昨年に続き懇親会が開かれ 60 名の参加がありました。

15 日には、一般口演 7 演題、教育講演として金澤 学先生 (科学大) に「デジタルデンチャー最前線」と題したご講演をしていただきました。現時点でのデジタル技術による全部床義歯製作の利点と、変わらない基本的な義歯製作の重要性について理解を深めたご講演でした。

また、併催で学術大会終了後に、「歯科と睡眠」をテーマに生涯学習公開セミナーが行われ、奥野健太郎先生 (大歯大) に「睡眠歯科の可能性～睡眠時無呼吸に対する歯科的アプローチ～」と題したご講演をしていただきました。『昼も夜も 24 時間あなたの QOL を

支えます歯科医療!』を歯科医療の新たなスローガンに掲げ『睡眠歯科』の可能性についてのご講演でした。

鈴木善貴先生 (徳島大) に「補綴歯科治療の鍵となる睡眠時ブラキシズムのマネジメント戦略」と題したご講演をしていただきました。睡眠時ブラキシズムの適切な診査・診断法とそれに対する戦略的なマネジメント法についてのご講演でした。

今回の学術大会では 180 名の方々にご参加いただき、盛会裏に終えることができました。ご支援を賜りました関係各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。(大歯大 高橋一也)

プログラム・抄録集

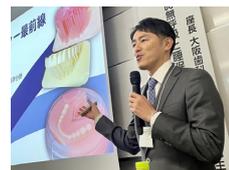
https://www.hotetsu.com/files/files_1236.pdf



学会会場風景



特別講演での西村正宏先生



教育講演での金澤 学先生

● 中国・四国支部学術大会

2024 年 8 月 31 日 (土)、9 月 1 日 (日) に松永匡司先生 (中国・四国支部) を大会長に、岡山大学創立 50 周年記念館において、令和 6 年度公益社団法人日本補綴歯科学会中国・四国支部学術大会を開催しました。台風 10 号の影響で会場に足を運ぶことができない方もおられ、ご迷惑をおかけしましたが、無事に全プログラムを終えることができました。初日には専門医ケースプレゼンテーション 5 題、一般口演 8 題の発表があり、ともに盛況でした。2 日目のシンポジウムでは、「保険適用の臼歯部 CAD/CAM について考える」をテーマに、峯 篤史先生 (大阪大) には長年の CAD/CAM 冠に関する研究結果を、安部倉 仁先生 (広島大) には PEEK 冠のエビデンスと臨床実感を、正木千尋先生 (九歯大) には 2024 年に保険収載されたばかりのエンドクラウンに関する新知見をご講演いただきました。学術大会閉会後の生涯学習公開セミナーでは、「美味しいと栄養を守る補綴歯科」をテーマに、吉田竜介先生 (岡山大) には味覚、松山美和先生 (徳島大) には栄養に関して補綴歯科との関連についてご講演いただきました。また、ノーベルバイオケア社によるランチョンセミナー、さらにはオンデマン

ド配信で松永匡司大会長による市民公開講座も開催し、盛り沢山の内容となりました。最後になりましたが、ご参加、ご支援下さいました皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。(岡山大 児玉直紀)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_1203.pdf



シンポジウムでの感謝状贈呈の様子
(左から座長 二川浩樹先生、講師 正木千尋先生、
講師 安部倉 仁先生、講師 峯 篤史先生、
大会長 松永匡司先生、座長 松香芳三先生)



生涯学習公開セミナーでの質疑応答の様子
(左から吉田竜介先生、松山美和先生)

●九州支部学術大会

2024年9月21日(土)、22日(日)の2日間、熊本県歯科医師会館にて熊本県歯科医師会と共催で、令和6年度日本補綴歯科学会九州支部学術大会を開催いたしました。初日は、シンポジウム「口腔顔面痛－“咬合治療”の落とし穴」(講師：九州大・築山能大先生、科学大・豊福 明先生)が催されました。築山先生は難治性の顎関節症で最初に咬合を触ることがなぜいけないのかを懇切丁寧にお話しされ、豊福先生は咬合違和感症候群での対応の難しさについて、専門医の立場でお話しされ、お二人とも普通の患者との識別の重要性を講演いただきました。

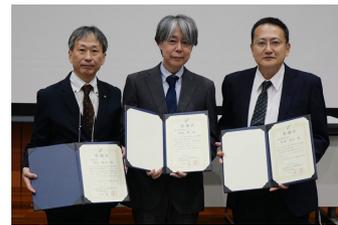
第2日目は、九州支部の恒例となりました、九州5大学の、今回は冠橋義歯学分野の教室の代表的な研究・臨床を発表する招待講演を開催しました。その後、ポスター発表とその質疑応答がなされました。午後には、昨年3月に九州歯科大学をご退職なさった細川隆司先生を講師として、特別講演「補綴とは何か？」が催されました。先生の長年の研究・臨床・教育の成果とその熱意をまざまざと感じ取ることができる、と言いますよりは、私にとりましては驚愕をもってただただ拝聴するといった素晴らしい講演でした。特別講

演をもって学術大会を閉じ、続けて生涯学習公開セミナー「クラウンブリッジにおける補綴歯科治療の勘所」(講師：大阪大・峯 篤史先生、明海大・三浦賞子先生)が催され、本セミナーでは活発な質疑応答がなされました。

今回の学術大会では238名の方々に参加いただき、大会を成功裏に終えることができました。ご支援を賜りました関係各位にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。(福歯大 松浦尚志)

プログラム・抄録集

https://www.hotetsu.com/files/files_1191.pdf



シンポジウム講師(左:築山先生、中央:豊福先生)の表彰



特別講演講師(左:細川先生)の表彰

【投稿募集】

Letter for Members では、各支部の学術大会報告、日々の研究の報告など、会員の皆さまの投稿をお待ちしております。採否は事前にお知らせいたします。

投稿は、公益社団法人日本補綴歯科学会事務局(jpr-edit01@hotmail.com)まで、メールにてお寄せください。

令和6年度認定医・専門医筆記試験

令和6年度の認定医・専門医試験は、昨年度に引き続き対面での実施となりました。2024年7月5日(金)の14:50から15:40まで第133回学術大会の会場である幕張メッセ国際会議場の第一会場に202名の受験者が集合しました。予想を超える受験者数で、当初想定していた第三会場から、急遽会場をメインホールである第一会場へ変更することとなり、認定医や専門医に対する志の高さを象徴するものであると感じざるを得ませんでした。多くの受験者に対し試験を行うことは、修練医・認定医・専門医制度委員会(以下、制度委員会)としても、とても緊張感のあるものでした。大会校および制度委員会メンバーのご尽力で会場設営から受付、試験監督までスムーズに行うことができましたことを心より感謝申し上げます。なお、合格基準(正答率60%以上)を満たした150名を合格とし、(合格率74.2%)、平均正答率(標準偏差)は65.4%(18.4)、最高および最低得点率はそれぞれ95.7%と20.9%でした。

試験実施までの制度委員会で行っている活動について触れてみたいと思います。試験を実施するにあたり、毎年12月ごろを締め切りとして、試験問題を各支部選出の代議員の皆さまに提出いただきます。今回

は、67名の代議員から201問題を提出いただきました。今年度より試験範囲をこれまでの旧領域から、新領域へと変更し、集まった問題を7領域のカテゴリーごとに分類します。その問題を制度委員会の先生方に依頼して、一次ブラッシュアップを行いました。その後、別の担当委員および幹事が二次ブラッシュアップを行い、出題候補問題を抽出していき、最終的に50問の試験問題が完成いたしました。このような過程を経ることで、認定医・専門医を目指す方の基礎的知識を適切に評価する問題作成につながると考えております。

令和7年度は2025年5月16日(金)14:30～15:20に出島メッセ長崎(第134回日本補綴歯科学会総会・学術大会 第3会場)にて実施されます。制度委員会では、令和7年度の認定医・専門医筆記試験に向けて、試験問題をブラッシュアップする作業に入っております。今後も補綴歯科学会の認定医・専門医制度の充実に会員の皆さまのご理解とお力添えをいただきますようお願い申し上げます。

(修練医・認定医・専門医制度委員会委員長
鮎川保則)



当日受験会場の様子

令和6年度専門医研修会が開催されました

令和6年度の専門医研修会は、昨年度に引き続き修練医・認定医・専門医制度委員会（以下、制度委員会）が所掌し、研修会のテーマに沿った講師を選定しオンラインで4回実施しました。

第1回は2024年6月16日（日）に「口腔機能検査の補綴歯科治療へのフィードバック」をテーマに座長を永尾 寛先生（中国・四国支部）と岩田好弘先生（制度委員会）にお務めいただきました。太田 緑先生（東歯大）には口腔機能検査の活用法と患者さんへのフィードバックの方法について、吉川峰加先生（広島大）には舌圧が低下した患者さんに対しどのようなアプローチをすることができるかについて実際の臨床での活かし方を多くの症例を供覧していただきながらご提示いただきました。

第2回は2024年9月15日（日）に「インプラントオーバーデンチャーのエビデンスと臨床応用」をテーマに座長を都築 尊先生（福歯大）と加我公行先生（制度委員会）にお務めいただきました。岩城麻衣子先生（科学大）には上顎インプラントオーバーデンチャーについて、荻野洋一郎先生（九州大）には下顎のインプラントオーバーデンチャーについてそれぞれたくさんの症例をエビデンスを交えながらご提示いただきました。高齢者に対する治療オプションの一つとして受講者からの関心も高く、多くの質問が受講者から寄せられました。

第3回は2024年11月24日（日）に「睡眠時無呼吸症候群」をテーマに座長を橋本和佳先生（東海支部）と木本 統先生（制度委員会）にお務めいただきました。篠邊龍二郎先生（愛知医科大学病院）は睡眠時無呼吸症候群の外来を担当されている医師で、その

長いご経験から歯科医師にできること、医師と歯科医師の連携についても詳しく教えていただきました。鈴木浩司先生（日大松戸）には閉塞性睡眠時無呼吸に対する歯科的対応について具体的な方法をご提示いただきました。

第4回は2025年1月19日（日）に「近年注目される低侵襲な補綴歯科治療ーオクルーザルベニア、シングルリテンションブリッジ、エンドクラウンー」をテーマに座長を水口 一先生（中国・四国支部）と近藤祐介先生（制度委員会）にお務めいただきました。佐藤洋平先生（鶴見大）にはオクルーザルベニアの臨床応用について、宗政 翔先生（九歯大）には昨年保険収載されたシングルリテーナーブリッジとエンドクラウンの有用性について豊富な臨床例とともに治療に際しての注意点などもご提示いただきました。

研修会後のアンケートから、「オンライン形式の講演会について」非常に高い評価を受けており、オンデマンド配信についても、聞きのがした部分も確認できるなどの意見をいただいています。今年の講演内容はいずれの回も95%以上の方が「大いに満足」または「満足」と回答されており、非常に嬉しく思っております。受講者の多くが指導医・専門医・専門医取得予定ということで、今後もアンケート結果を踏まえながらより充実した内容の研修会を開催する所存です。令和7年度も継続してオンラインでの専門医研修会を開催する予定ですので、引き続き皆様のご参加をお待ちしております。

（修練医・認定医・専門医制度委員会委員長
鮎川保則）



令和6年度第1回



令和6年度第2回



令和6年度第3回



令和6年度第4回

第9回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'24」開催の報告

2024年10月12日(土)、13日(日)に、第9回補綴歯科臨床研鑽会「プロソ'24」を岡山大学鹿田キャンパスにて開催しました。

若手歯科医師から、新しい技術を習得する機会を補綴学会でも提供してほしいとの強い要望をPMネクスジェン等でいただいたことから、本年度のプロソでは従来の講演会に加えてハンズオンセミナーを統合した形式で実施しました。1回目である今回は、補綴歯科治療が抜歯を行う前から始まるというコンセプトから、「大規模GBRを回避するリッジプリザベーション」と題して行いました。ハンズオンセミナーは、講演会の前日の10月12日に実施し、手技やエビデンスに関する講義に加えて、ブタの下顎骨を利用したリッジプリザベーション実習を行いました。参加された30名の先生方には、リッジプリザベーションを行う必要があるかどうかの診断が可能となるとともに、明日からリッジプリザベーションが確実にできる技術の習得を目標にセミナーを行い、大変好評をいただきました。

一方、補綴歯科専門医は、患者の主訴に対応する応急処置をはじめ、歯周治療、エンド、歯列矯正、歯周組織再建、口腔インプラント治療、歯冠修復、有床義歯まで、幅広い治療を統合して行う役割を担っています。特に一般開業医として活躍するためには、これらの周辺必須技術を理解し、実践することが求められます。そこで、10月13日の講演会では「補綴治療の質を向上させるための周辺必須技術を学ぶー補綴歯

科専門医の集学的な臨床能力を磨くためにー」をテーマに、以下の三つの臨床セミナーを開催しました。

- インプラント関連：「硬軟組織再建，抜歯前から始まる補綴戦略」
- 歯列矯正関連：「補綴治療の質を高める矯正・補綴コンビネーション」
- 歯周・エンド関連：「補綴治療のアウトカムを高めるための歯周・エンド治療」

おかげさまで、約300名の方にご参加いただくとともに、12社の業者展示やランチョンセミナーの協賛をいただき、大変な盛会となりました。ご参加いただいた皆様にはこの場を借りて厚く御礼申し上げます。また、本セミナーが、補綴歯科専門医を目指す若手歯科医師にとって、総合診療歯科医としての臨床能力を得る機会となったのであれば、主催者として大変嬉しく思います。今後も、若手歯科医師の成長を支援するため、より充実した内容のセミナーを企画してまいります。

最後に、ご登壇いただいた講師の先生方に心より感謝申し上げます。

大会長 窪木拓男（岡山大学学術研究院医歯薬学域
インプラント再生補綴学分野）

実行委員長 大野充昭（岡山大学学術研究院医歯薬学域
インプラント再生補綴学分野）



ハンズオンセミナーの様子



講演会会場の風景

受賞報告

○市川哲雄先生、佐藤裕二先生が令和6年度日本歯科医学会会長賞を受賞

日本歯科医学会の最高顕彰である令和6年度日本歯科医学会会長賞に本会推薦により市川哲雄先生（徳島大）が研究部門で、日本老年歯科医学会推薦により佐藤裕二先生（昭和大）が教育部門で選出され、第114回評議員会（2月18日）において授賞式が挙行されました。誠にありがとうございます。

（広報委員会）

<授賞概要>

市川哲雄先生

氏は、昭和58年に新設の徳島大学歯学部の一期生として卒業後、地方大学の不利な条件をものともせず、徳島大学を拠点に研究・臨床活動に精力的に取り組んでこられました。特に義歯ケアやデンチャープラークに関する研究を通じて、この分野の黎明期に多大なる貢献をされました。

口腔を唾液やカンジダを含む細菌叢、口腔機能とともに包括的に捉える研究を進め、口腔健康度という概念を提唱しました。これは現在の「オーラルフレイル」や「口腔健康管理」の概念の基礎となったものと考えられています。

また、自身の研究や臨床経験に基づいた著書を数多く出版されており、「総義歯を用いた無歯顎治療—口腔解剖学の視点から」は、総義歯治療と口腔解剖学画像を直接結びつけた初の教科書であり、「無歯顎補綴治療学」は無歯顎の病態分類を導入したもので、その独創性と先見性が高く評価されています。

さらに、補綴歯科治療の診療ガイドラインや広告可能な補綴歯科専門医制度の認証において極めて重要な役割りを果たされました。

本学会においても、理事、評議員、各種委員会委員等を歴任され、会務の健全な運営に尽力されました。

<授賞概要>

佐藤裕二先生

氏は、昭和57年に広島大学歯学部を卒業後、広島大学歯学部、昭和大学歯学部において、42年間の長きにわたり歯学部学生の歯科医学教育に携わり、革新的な取り組みにより、有能な人材の育成に多大なる貢献をされました。

前任の広島大学での問題解決型学習(PBL)の経験を踏まえ、平成14年に昭和大学歯学部で初めてPBLを導入し、これが現在の昭和大学全体のチーム医療教育におけるPBL教育の基盤となりました。このPBL教育提供法は、日本歯科医学教育学会でも高く評価され、平成19年度には奨励賞を受賞するなど、教育効果の高い取り組みとして認められています。

さらに、「自ら考える力」を学生に養わせることを重視され、臨床術式においても「本当に妥当なのか？」という疑問を持たせる教育を実践されてきました。さらに就職支援においても、昭和大学の学生ブランド価値を高める取り組みを推進し、これらの成果により、昭和大学の国家試験合格率は向上し、学生からの信頼も厚く、謝恩会では、学生によって自主的に選定される「最優秀賞：極悪な先生部門」に表彰され、ステージで学生たちとひげダンスを踊るなど、学生との強固な信頼関係を築かれてきました。

本学会においても、常任理事、評議員、各種委員会委員等を歴任され、会務の健全な運営に尽力されました。



住友雅人日本歯科医学会会長（左）より受賞を受ける市川先生



住友雅人日本歯科医学会会長（左）より受賞を受ける佐藤先生



授賞式の集合写真

Pacific Coast Society for Prosthodontics (PCSP) 89th Annual Meeting 参加報告

2024年6月19日～23日にかけて、アメリカ・モントレーでPacific Coast Society for Prosthodontics (PCSP) 89th Annual Meetingが開催されました。本学会から参加要請があったこともあり、参加させていただきましたので、その様子をご報告いたします。

モントレーは、サンフランシスコから南へバスで約2時間半、カリフォルニア州の中央海岸沿いに位置する美しい港町です。6月でも気温は15°C前後と比較的涼しく、朝晩は肌寒さを感じるほどでした。この街は、ラッコをはじめとする海洋生物が豊富に生息し、海に面したモントレーベイ水族館も有名です。また、新鮮なシーフードや、歴史あるジャズ・アート文化、そしてサーフィンなどのマリンスポーツも盛んで、自然と文化が見事に調和した落ち着いた街でした。

今回の学会のテーマは「Tradition Meets Technology」で、臨床に直結する講演とポスターによる研究発表が行われました。特に補綴歯科臨床に関するシンポジウムや講演が多く、興味深い内容が数多く発表されました。

6月21日の午前中には、本学会から窪木拓男先生がSession 4: Treatment of the Completely Edentulous Patientにてご講演されました。インプラントをはじめ、これまでの研究や補綴臨床のエビデンス、さらには欠損補綴治療と認知症・全身状態との関わりについて紹介され、日本の補綴歯科の研究・臨床の先進性を示す素晴らしい講演となりました。

私は6月21日の午後に“Effectiveness of dental implants indicated for early-loading protocols on peri-implant bone healing: An animal study.”という演題でポスター発表を行いました。早期過重向けのインプラントが骨治癒に与える影響についての研究です。私の他にもJPSから9名の先生方がポスター発表を行いました（東北大：2名、科学大：3名、昭和医大：2名、岡山大：2名）。今回はデジタルポスター形式での発表でしたが、学会開催後にスケジュール変更が複数回発生し、さらには発表当日に「7分程度の口頭発表をお願いします」と突然の指令があるなど、日本のカチッとした学会運営とは異なる自由な運営スタイルに戸惑う場面もありましたが、それもまた貴重な楽しい経験となりました。

発表の後には、現地の雰囲気の良いレストランで、窪木先生ご夫妻を含めたJPS関係者で懇親会を開催しました。食事を楽しみながら、学会の内容や補綴歯科の将来について意見交換を行い、有意義に懇親を深めることができました。

今回のPCSP参加は、発表の機会をいただいたことはもちろん、アメリカの学会文化を肌で感じながらの海外交流を得る貴重な経験となりました。今後もJPS-PCSPの良好な関係が続き、更なる学術交流が発展していくことを期待しています。

(渉外委員 小川 徹)



JPSからの参加メンバー



ポスター発表の様子（芦田先生）



会場近くのレストランでのJPS関係者の懇親会